

第 21 回四国中央市障害児等福祉審議会会議録

日時 平成 30 年 3 月 29 日(木) 15 : 00～

場所 子ども若者発達支援センター3階 研修室 1

出席者名（敬称略）

委員

藤枝俊之（副委員長）、山内紀子、東誠（委員長）、井上俊正、井原佳代、由良芳雄、井上陽子、立花清香、高塚政生、奥井真理子、越智寛、尾本真之介

事務局

福祉部長 加地宣幸

発達支援課 富家誠司、石川光伸、曾我部公恵、河村清児、近藤心平

生活福祉課 田邊真二

傍聴

1名

1. 開会

委員長	新居浜特別支援学校分校設置に向けて、前向きに進んでいると聞いている。具体化にあたっては、たくさんの方の良い意見を取り入れていただけたらと思う。
-----	---

2. 議事

(1) 第 20 回審議会会事録の確認

事務局	《会議録案を説明。内容省略》
-----	----------------

委員	承認。
----	-----

(2) 不登校・ひきこもり支援の現状と今後について

事務局	《子ども若者総合相談センターおよび学校教育課における、不登校・ひきこもり支援の現状と今後について説明。なお、学校教育課分については、担当者欠席のため事務局による代読。》
-----	--

委員長	事務局からの説明について、何か意見や質問はないか。
-----	---------------------------

高塚委員	子ども若者支援ネットワーク会議において平成 30 年度に開催される 2 つの個別検討会は、ネットワーク会議の委員以外の人でも参加できるのか。
------	--

事務局	基本的には、ネットワーク会議の委員が分かれて 2 つの個別検討会に入るが、事務局としては、それぞれの検討会にふさわしい人物がいれば、外部から参加していただくこと
-----	--

	も考えている。なお、個別検討会の議題や運営方法については、次年度第1回目のネットワーク会議において決定される。
高塚委員	こども支援室の相談件数の内訳を見ると、「その他」が最も多くなっているが、例えばどういった相談があるのか。
事務局	確認して後日報告させていただく。
高塚委員	各学校に配置されている相談員等は、どういった資格を有しているのか。
委員長	スクールソーシャルワーカーについては社会福祉士等の資格を有している。ハートなんでも相談員については、有資格者のほか教員のOBなどが相談に当たっているが、資格のない人もいる。
副委員長	朝の校門前は、児童を送迎する保護者の車で渋滞になっている。長欠ではないにしろ、保護者の送迎がなければ遅刻をする可能性の高い子どもが大勢いるのだと思う。現在は、不登校の子どもに焦点をあてて議論をしているが、本質的なところにまでは切り込めていないと感じる。 年々不登校の子どもが増えている中で、これから先の不登校児・ひきこもり対策を議論する際には、「どこに要因があり本質的な対策は何か」と、「今不登校・ひきこもりにある方にどう対応していくか」の2つの視点を持っていきたい。 全国ではさまざまなプロジェクトが始まっているが、その中でも「クラスジャパンプロジェクト」に注目している。このプロジェクトは、少子高齢化により生産人口が減少していく中で人材確保をするために、社会参加ができていない不登校・ひきこもりの方へのITを活用した支援に焦点をあてたもので、大手企業参画のもとすでに動き出している。 こういったものの活用も含めて検討していきたい。
事務局	クラスジャパンプロジェクトについては、現在運営側に接触を図っているところである。
尾本委員	本審議会の検討事項は多岐にわたる。部会を設けて議論してはどうか。
奥井委員	「起立性調節障害」については、現在四国内に専門の医療機関がなく、困っている保護者も多いと思う。学校教育課が今後の課題のひとつとして、「起立性調節障害の研究」をあげているが、希望する保護者が参加できるようなものにしてほしい。
副委員長	起立性調節障害の診断をするためには専用の高価な機械が必要ではあるが、三豊総合病院では簡易検査をもとに、診断、そしてカウンセリングをしている。 起立性調節障害は心理的な要因による一時的な症状もあり、まずは教職員や部活などで子どもに関わっている人を対象に研修することが重要だと思う。

- 委員長 事務局には、起立性調整障害に関する研修を幅広いものにするについて、学校教育課へ検討をお願いしていただきたい。
そして不登校の現状について、その本質に切り込むような議論をしていくことを、その検討の場も含めて検討していきたい。
- 井原委員 子ども若者総合相談センターの相談とこども支援室との相談については、組織が違う中でどのように連携しているのか。教育と福祉の連携や、子ども若者相談センターと地域の資源や関係機関との連携の状況はどうか。
- 事務局 関係機関との連携や地域資源の発掘については、引き続き子ども若者支援ネットワーク会議の中で行っていきたい。今年度は初年度ということもあり、関係強化に重きをおいていたが、次年度からは掘り下げた議論ができるように努めたい。
- 委員長 義務教育期間については手厚い支援があるが、それ以降の支援については関係機関連携のもと踏み込んでいく必要がある。
- 奥井委員 自分の子どもも残り1年で義務教育が終わるため、今後について不安がないわけではない。しかし、Palette で提供しているフリータイムを利用している子どもが進学につながったケースがあるように、本人の充電が終わり、力がついたそのタイミングで手を差し伸べられるように、まわりが準備しておく必要があると思う。
- 委員長 フリータイムの拡大については体制的に難しい状況であると説明を受けているところであるが、効果があがっているところでもあり、その活用については引き続き検討していきたい。
- 副委員長 日中活動をしたいが、ほかの生徒が学校に行っている時間帯であることから、人目を気にして外に出られないという子どもは多いと思う。「不登校や引きこもりの方に優しい場所がここにある」という情報を発信すれば、子どもたちは社会に出やすくなると思うのだがどうだろうか。
困っている子どもたちを助けたいと思っている人は多いと思うが、その方法がわからないのではないか。そういった人のための Howto モノを作ることができれば、子どもたちがもったこの地域で生活しやすくなるのではないか。
この場ではなく、個別のテーマを検討する場での議論になるのかもしれないが、相談や支援だけでなく、生活に役に立つ情報や場所を子どもたちに示してあげたい。
- 奥井委員 学校に行けなくなった当時は、その状況に本人はもちろん家族も苦しんでいた。適応指導教室などいろいろな場所に行ったが、心が泣いている状態では上手くいかなかった。それでも人との関わりを断つことはなく、少しずつ支援をつないで現在までやってきた。
- 山内委員 進学はできるが、その学校に適応できるかどうか分からないという悩みや不安は、本人や保護者だけでなく、進路指導の先生にも当てはまるのではと思う。

この学校にはこういった特色があり、こういった子どもが適応できるといった情報をわかりやすく示してあげたい。

ひきこもり支援については、とても広い範囲での検討が必要であると思うが、どんな病気にせよ、本人にしても家族にしても健康な部分というのはあると思う。それをいかにして増やしていくかが基本的な働きかけではないか。

Howtoにより、ひとりひとりがそういった心がけ持つことで、健康が健康を呼ぶ地域になるのではないかと思う。

高塚委員 職業体験やサークル活動など、学習支援ではない社会参加を試みることで、子どもが自分の居場所を見つけやすくなると思う。

委員長 本市には民間の不登校・ひきこもり支援の場はあるのか。

事務局 とても少ないのが現状であり、子ども若者総合相談センターとしてもつなぎ先を探すのに苦慮している。ただし、こちらが把握できていない、つなげられていないだけで、実際には資源があるのかもしれない。

奥井委員 自分の子どもの場合、図書館という存在にとっても助けられた。子どもにとって「ここに居て良い」と思える場所のひとつだと思う。

尾本委員 家から出られない人のための訪問支援の現状はどうか。相談だけでなく、本人が外に出たいと思ったタイミングで、同行できるような支援ができれば良いと思うのだが。

事務局 こども支援室では訪問支援を行っており、現場で子どもと遊んだりもしていると聞いているが、子ども若者総合相談センターでは人間的な問題から提供に至っていない。どういったことがどこまでできるのか、現在内部で検討している。

(3) その他

事務局 ①「四国中央市障がい福祉計画（第5期）について」
《現在タウンコメント中の四国中央市障がい福祉計画（第5期）の内容を説明。内容省略》

委員長 事務局からの説明について、何か意見や質問はないか。

委員 意見なし。

事務局 ②「平成29年度パレット・プラン実施状況について」
《平成29年度のパレット・プランに基づく取り組みの状況を説明。内容省略》

委員長 事務局からの説明について、何か意見や質問はないか。

井原委員	ジョブアシスト UMA でバックアップをしている当事者会「ポップコーン」との交流を、Palette の職員に図っていただいた。将来的には利用者との交流が図れる機会があればと思っている。体験談を語るなど、先輩として関わることができればと思う。
副委員長	パレット・プランの実施状況に対する、本人や保護者からの評価についてはどう考えているのか。客観的な評価をしないまま進めていくと、本来の進むべき道からズレてしまうことがある。
事務局	パレット・プランもいずれ見直しの時期を迎える。その際にはパレット・プランに対する客観的な評価も必要になってくるので、これからその方法を検討していきたい。ついては、良いアイデアがあれば事務局までお伝えいただきたい。
立花委員	放課後等デイサービスについては、事業所からアンケートの依頼があった。書きづらいところもあったが、評価につながる良い機会であると思う。
井上陽委員	伝えたいことを伝えられる機会になっている。
事務局	③「パレット・レターの発行について」 《パレット・レター第2号、第3号の内容を説明。内容省略》
委員長	事務局からの説明について、何か意見や質問はないか。
委員	意見なし
事務局	④「今後の開催予定について」 《次回以降の審議会開催予定日を説明。内容省略》
委員長	事務局からの説明について、何か意見や質問はないか。
委員	意見なし
奥井委員	⑤「不登校を考える親の会 ほっとそと mama による、映画「さとにきたらええやん」の上映会及び講演会の報告について」 《3月25日に開催した上映会及び講演の内容を報告。内容省略》
委員長	奥井委員からの説明について、何か意見や質問はないか。
委員	意見なし

3. 閉会

副委員長	自分もそうだが、やることが非常に多いために、自分自身の健康度合いがどうなのかと、不安になることが皆さんにもあると思う。
------	---

「やらなければ」と焦ることによって自分の健康度が落ちれば、子どもたちの健康度も落ちると思う。

やるべき課題があることは重々承知であるが、一度立ち止まって切れるものはスパッと切り、スクラップアンドビルドにより書き直すことも、時には必要なことだと思う。

新たな1年のために再スタートを切りたい。